

平成 25 年度
第 2 回 公開授業研究会「中心授業」

平成 25 年 11 月 20 日(水) 第 5 校時

授業者: 曾根喜美男

授 業 デ ザ イ ン

1. 教科: 英語科「Communication English I」
 2. 学級: 「商業科 1 年 B 組」
 3. 学習内容: 「現在・過去進行形」
 4. ねらい: 英語による授業
 5. 教材: 「Warm Up Sheet」(All Aboard! English I)
 6. 授業展開
 - Warm up -①
 - Warm up -②
 - Introduction
 - Warm Up Sheet
 - Exercise
-

Master English

— Key Points of English Grammar —

2009年6月 Kimio Sone

○はじめに

生徒の学びを支援するために、「授業をどう組み立てたらよいか」、あるいは「どんな教材を用意したらよいか」、ということの研究する分野を、「教育学」の中でも「授業設計(インストラクショナル・デザイン)の研究」と呼んでいる。

この「教育学」の分野で、アメリカの教育工学者ジョン・M・ケラーが提唱しているARCSモデルが、いま注目を集めている。ARCSとは、注意(Attention)、関連性(Relevance)、自信(Confidence)、満足感(Satisfaction)の頭文字をとって名づけられたものである。

ケラーによれば、

「やる気を出させるためにはどうしたらよいか」

「勉強する意欲を持たせるには、どうしたらよいか」

と、ただ漠然と考えるより、

「なぜやる気がでないのか」を4つの側面からチェックして、

それに応じた作戦を立てる方が効果的であるという。

そのためには、

- ・ 一人ひとりの生徒が、「何が原因で学びへの意欲を持つことができないのか」を見極め、
- ・ その生徒に「最低限必要な手法のみを授業の中で組み入れていく手続き」が大切である、

と提唱している。

同時にケラーは、学習意欲を高める工夫として、

第一は、「目標を明確に示すこと」。

学びのゴールが曖昧であったり遠すぎると、「やればできる」という感覚が持てない。

第二は、「成功の体験を積み重ねること」。

小さな一歩でも、実際にできたという成功体験を積み重ねることが必要。

第三は、「生徒にコントロールを握らせること」。

生徒が「自分が工夫して、努力したから、その結果として成功した」、と思えるような状況をつくる。

という三つの点を強調している。

そこで、今回、ケラーの提唱しているARCSモデルに基づく「自学自習ワークシート」を作成した。

作成にあたっては、生徒が学習者として自立できるように、従来型の手法(講義解説)は一切排除し、

① Key Pointの提示

② Key Pointの構成要素の確認

③ Key Pointの定着

④ Key Pointの実践

□言語材料

ターゲット	・ 現在進行形 < be 動詞 + 動詞の ing 形 > (参考) 過去進行形 < was [were] + 動詞の ing 形 >
表現	・ for survival (生きるための) ・ give up (あきらめる) ・ fly back (飛んでもどる) ・ cycle of life (生命の循環)
機能	・ 描写する (It's swimming in the river.)

第三課の Target は「現在(過去)進行形」である。

be(一般)動詞によく慣れた生徒が、

- どうして「be 動詞」と「一般動詞」を、同時につかわなければいけないんですか？

と非難ごうごうである。

〔 走っているから「ランニング」。
私が走っているから「I'm running」！
あなたが走っているから「You are running」！ 〕

と生徒を丸め込む。

しかし現在分詞の語尾変化に、生徒はまた混乱する。

そこで、現在分詞の語尾変化の Writing Exercise を課すのである。

言葉の習得には、暗誦が一番！

唯ひたすら、覚えるまで暗誦する！

東京書籍 (高校英語)

平成19年7月30日

All Aboard! English I

文法事項の「導入」「定着」システムの構築への取り組み

平成20年3月17日

All Aboard! English II

文法事項の「導入」「定着」システムの構築への取り組み

平成21年3月1日

How to build Up

Bridge the Gap between Junior and
Senior High School English

平成21年6月18日

Master English

Key points of English Grammar

平成21年6月18日

Hello there! Oral Communication

The Scenario of My Lesson

平成21年10月1日

Communication Exercises